公表用（要約版）

第１回青森市総合計画審議会総括分科会議事要旨

【日　時】令和５年 12 月 27 日（水）　13：00～14：40
【場　所】アップルパレス青森　３階　雅の間
【出席者】神山 博　総括分科会会長、竹内 紀人　委員、児玉 寛子　委員、
　　佐々木 淳一　委員　　計４名
【欠席者】なし
【オブザーバー・傍聴者等】なし
【事務局】赤坂副市長、織田企画部長、白戸企画部次長、太田企画調整課長ほか　計８名
【配付資料】
・次第
・今後の主なスケジュール
・新総合計画（基本構想）の構成について
・課題（案）及び目指すべき方向性（案）
【会議概要】
○基本構想の構成案について、事務局から説明。出席委員が意見を出し合い、事務局案の構成について了解が得られた。
○課題（案）及び目指すべき方向性（案）の取りまとめについて、事務局から説明。出席委員からそれぞれの分科会における審議内容の補足説明の後に議論がなされ、事務局案を修正することについて了解が得られたことから、後日、会長と事務局で調整したものを出席委員へ報告することとした。

新総合計画（基本構想）の構成について

（委員）
・章立てについては問題ないと思います。基本視点にある「若者のあふれるまち」「魅力あるまち」「誇れるまち」という３つがあまりにも短すぎると思います。長いのはダメですけど、少しワードを埋め込んだほうが市民の方もわかるのかなと思います。
・いきなりスマートオープンシティのまちと言うのは少し抽象的すぎるので、もう１つぐらいワードをはめ込んだほうが基本視点を理解できるのかなという意見です。

（委員）
・諸課題で「多様な主体」という表現がある一方で、基本視点で「若者あふれる」とあって、対比しているのかなという気がして、私の中では若干の違和感があります。

（委員）
・諸課題のところで「市民力＋民間力」と書いてしまっていいですかね。「市民力＋民間

力」という政策を作って、新しいまちづくりをするということだと思いますが、諸課題のところで書いていいのかなということが少し疑問です。

（委員）

・課題ではなく方向性で書いたほうがいいのではないかと思います。

課題（案）及び目指すべき方向性（案）について

第１分科会所管部分の補足説明等

（委員）

・施策１「地域産業の安定経営・基盤強化」のところでは、特に農業の話が出てきます。農業という産業の特性としては、なかなか生産性の向上は難しく、高く売ることも簡単なことではない。単純に稼ぐ産業としてだけではなく、副業への展開などいろんなことも含めて、そういう表し方ができたらいいかなというお話がありました。

・施策２「産業を支える人材の確保・育成と雇用創出」のところでは、主に商工業関係で、農業ももちろんですけども、やはり人材不足、労働力不足の話がありました。いわゆるポストコロナ的なセンスの中で新しい産業を作っていくという話がある一方で、「しごと創造会議」でも出ている議論ですけれども、本市の大半を占める対面型非製造業の弱さと、強くすることの難しさ、それをどうやってクリアしていくのか。その辺りの表し方、基本構想として示していく中でのあり方みたいなことに、意見がございました。

・施策３「個性と魅力のある商店街の活性化」。商店街という言葉に引っ張られてしまって「また新町商店街の話か」と想像させるとちょっとまずいよね、という意見をさせていただきました。

・ＤＸの推進も絶対に外せない。「しごと創造会議」ともリンクする部分ですが、強くて新しいものを作っていくことと、既存のなくてはならない産業をどうやって変革させ、新しいものに進化させていくのかという。ＧＸも同じことだと思いますけれども、「本市の経済構造的なことを常に頭に置いて話し合いをしましょう。」ということでやってまいりました。

・起業・創業については、若者というのが今回１つのキーワードになっておりますので、「若者等」という表現になっているかと思います。

・「域外からの所得獲得、域内の循環」、これも古くて新しい問題でございますので、「まさにポストコロナ時代の青森市のあり方ってどうだろうという視点が必要ですよね。」という話になっております。

・ブランド力については、言うまでもなくあらゆる場面で必要ということです。

・観光に関しても、交通網、立体観光、観光資源、情報発信、大体こういったところに収

れんするのだろうという、それぞれの立場からの発言がございました。

・その中で１つ、「観光資源の充実」というところで、「充実」という言葉のほかに、何かいい言葉がないかなということを考えております。今更、新しく「充実」させるというよりは、見出だされるもの自体は十分に見出されているわけで、その中でブラッシュアップに相当するような適切な日本語があればいいなと考えております。

・公民連携、関係人口、定住はもとより、例えば、広域連携、交流の推進という人口減少が進んで産業的にも厳しい、そして青森市は連携中枢都市圏の中心であることを考えた時に、東津軽郡４町村との連携や青函交流ということはかなり重みをもって捉えていかなきゃならないだろうという意見は出ておりました。

（委員）

・政策 1、2、3、4 の順番とか、非常に見せ方が難しいと思っております。政策 1「活力ある地域産業の育成」って実はここが１番大事で、先ほどで言うところの農業、それから対面型非製造業分野ということを強くしないとどうにもならないという認識を持っております。ただし、今、新しい青森をこれから作っていこうという時に、必ずしもこれが１番最初にくるのが妥当かというと、これもまた色々と議論があると思いますので、この辺は皆さんの意見をぜひ聞きたいなと思ってきたところです。例えば「時代の変化を先取りした」を真っ先に持ってくることも１つの案ではないか。

（委員）

・政策 2 と政策 3 を全面的に出して、ＤＸとかということでインパクトを図るのはわかりますけれど、個人的にはやはり地域産業の育成というか、その基盤をある程度強化し、その次にＤＸや観光に結び付けるということであれば、この順番でいいと思います。

第２分科会所管部分の補足説明等

（委員）

・子どもに関して、教育、課外活動など、様々な御意見が出ました。教育環境に関しては、今、学校教育の環境も随分と変わってきていて、コロナウイルスによってパソコンなどが導入されて、その適切な活用ということも政策１のところで取り上げられました。

・政策１と２に重複する部分ですけれども、意見が多く出ていたのが、小学校での課外活動のことです。クラブ化が進んで地域移行ということで、勝ち負けを優先するのか、それとも教育的視点を入れていくのかということと、親側からすると送り迎えや様々な経費の負担が生じるという現実的な話もあり、それらの課題を前向きに捉えていけるような形で施策のほうに盛り込めたかと思っています。

・子どもの部分では、障がいを持つ子どもへの働きかけということも言われていて、親御

さんたちにどう伝えていくか、周りがどう理解していくかというようなことも話題になっておりました。

・子どもと同じくらい意見が出たのが高齢者のことで、元気な高齢者の方たちの活躍の場の整備や展開と、50 代・60 代のいわゆるリタイアして間もない方たちの地域活動への参加促進や、リタイアしてすぐ体を壊すというような事例があるので働き盛り世代からの健康づくり、ということも課題になっておりました。

・政策 4 と 6 のところで関連しますけれども、高齢化という問題で、地域生活を支えてきた様々な活動が高齢化によって人手不足に陥っている。実際に今頑張っていらっしゃる高齢者の方たちもこの後どうなるのかという不安があり、それは青森で特徴的な除雪であり、防犯であり、政策 2 の文化の継承というところでも話題になっていました。青森には「ねぶた」という非常に貴重な文化がありますが、それを伝承していくところに高齢化の波が押し寄せているという話題が出ていましたので、政策の中には盛り込んだつもりです。

・政策を実現するためにというところにも書かれてあるところですが、第 2 章の「人をまもり・そだてる」という中で、市民に様々な情報の発信と伝達が不足している。知っていれば動けるが、知らないとか知らなければ無関心が始まり、そこから参加機会が縮小するということが出ていて、これは様々な政策に共通した話題だと思います。ターゲットによって発信する媒体は SNS であったり、広報あおもりであったり様々だと思いますが、発信・伝達の手段の体制というものも住民の切なる思いとして意見交換の中では出てきていたように思います。

（委員）

・「ICT 教育等、質の高い教育と受けることができる」というのは具体的にはどういったことでしょうか。

（事務局）

・いわゆる GIGA スクールという、パソコンを活用したりネットワークを使ったりと、新しい教育の仕方が生まれてきておりましたので、教えるための環境と、実際その機械を使ってどう教えるかということが一体になっております。

（委員）

・男女共同参画のところです。固定的な役割分担意識とかを変えていかなければならないというのは本当に大事なことだと思っております。特に本市の場合というか全県的な問題だと思いますが、議会の構成において女性が極端に少ないとか、一朝一夕に解決できない役割分担の問題があって、それは第 1 分科会の仕事の関係でも、女性にきちんと高付加価値な仕事をやっていただくことを考えたときに、小さい時から多文化や多様性、

男女共同参画みたいなことを徹底的に教える必要があると思います。それと、その時に使う言葉として、色々と性の問題が議論になる中で、男女共同という言葉がいいのだろうかと思います。まだ男女共同のほうが分かりやすいところもあると思いますし、まずは男女共同をなんとかしなければいけないというのはあると思いますが、いわゆる多様性みたいなことで考えた時に、言葉としての男女共同参画をどこまで使うのかというのが議論の的になるかなと思っております。

・施策２のほうですけれども外国人の話。私も大学で留学生等、色々と悩み事を抱えておりますので、非常に大切な話だなと思います。ここで言う多文化共生社会というのは在留外国人、つまり定住する人をイメージしているのですけども、外国人を受け入れる環境が整っているというのはインバウンドのお客様を受け入れることにすごい魅力があり、力になると思います。これは、第１分科会の観光の話にもなりますが、交流外国人といいますか、短期滞在の外国人のイメージもここに盛り込めることができたら素敵だなと思いました。

（委員）

・（外国人の件について）施策名を若干直すというイメージですか。

（委員）

・多文化共生社会でいいと思います。ニュアンスとして、住んでいる人だけじゃないよということが入っていればと。それから、先ほどもお話がありましたように、全てを今できるわけではないということもありますし、まだ在留外国人もそんなに多いわけではないということもあって、徐々に整えていきましょうという精神を持っていますよという時に、そこは住んでいる人だけじゃないよという気持ちがこもっていれば、言葉としては多文化共生でよろしいかと思います。

（委員）

・「活躍の社会の形成」とありますが、なぜ「の」が２つも続くのかと思います。「活躍社会の形成」でいいと思います。

（委員）

・男女共同参画という言葉が確かに定着しています。ただ、いわゆる LGBTQ の話でもあるように、あっという間に男女だけじゃないという世の中になってしまった中で、男女共同と言っていいのかということです。私は男女共同のほうがわかりやすくていいと思いますけども。広く言うと、まさに多様性の一言で、あるいは共生社会の一言で済むのですが、今度は市民の方々にとって分かりにくいという問題が生じると思うので、さっきあえて感想ですと申し上げたのはそういう意味です。男女共同はまかりならんという

ことではなくて、世の中的に男女という言葉自体をあまり使わなくなってきている感覚を持っておりまして、なにか上手い方法がないのかなと。

・随分前ですけども、私が市の男女共同に参画させていただいた時に、その時点で委員の方々から、男女共同の宣言を出すにあたって、名前が良くないのではないかということをすでにおっしゃっている方がいました。その時に私が言ったのは、確かに男女だけじゃない性の認識のあり方など色々あるのは存じ上げていますけども、まだそこまで我々は行ってないと思いますと意見として申し上げました。ただ、あっという間に、最近、いわゆる多様性の中のかなり重要な部分として認識されるようになって、言葉は難しいなとしみじみと思っていることでございます。

・分かりやすい言葉で、女性がまだまだ活躍できにくい状況を市として他地域に先駆けてやっていくための計画になればいいと思うので、そこまで言葉にこだわって「男女」はまかりならんということではございません。

（委員）

・例えば、「全ての人が支え合う社会の形成」とかですか。

（委員）

・そうなってくると訳が分からなくなりますし、施策 1 と施策 2 が合体しなければいけない場面も出てきます。それを今望んでいるのではないですし、こっち側を心配するとあっちで問題が起き、その逆もあり。

（委員）

・言葉よりも、まずはターゲットを絞って、解決しやすい方法にするということがいいのではないでしょうか。

第 3 分科会所管部分の補足説明等

（委員）

・第 3 章が「まちをデザインする」という項目で、政策は 6 つありますが、1 つ目のコンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりについては、中心市街地の形成のところが議論になりまして、コンパクトにネットワークを繋げながら、それぞれのまちづくりを進めていくということですけども、それに関しての様々な御意見がありましたが、コンパクトな複数の拠点づくりを促進するということで収まりました。

・2 つ目の雪対策の充実に関しては、かなり議論がありまして、除排雪業者や行政のこれまでのあり方とか、AI とか使ってやればどうかという話もありましたが、他都市の例も聞いてみたいということなので、次の分科会でその説明もあると思います。市民からのアンケートでも雪問題の意見が 1 番多いということです。ただ、具体的な到達点という

のがなかなか見えてこないので、これは今後の議論になると思います。施策については、空き家対策も含めて進めていくということでまとまっております。

・3つ目の都市景観と居住環境の充実というのは、八甲田風力発電の議論になりまして、委員からは、青森市だけでも完結できるような八甲田エリアを設定して、環境に資するべきではないかという意見もありましたが、複数の自治体がまたがっているので県という大きい視点で見なければならないという説明が理事者側からありまして、県の動向を見据えながら、八甲田も含めた市域の都市景観とか、住居ニーズに沿うような環境整備をしていこうという話でまとまりました。

・社会情勢の変化に対応した交通インフラの充実ですが、雪問題とリンクしますけれども、広域交通も含めて域内交通の充実も重要ということで、都市計画道路を様々進めておりますけれども、残っている部分の交通環境をしっかり確保していく必要があるという意見が出ました。

・政策5自然環境の保全。むつ湾やホタテのほか、食品衛生管理など、多岐にわたる意見が出ましたが、閉鎖性海域であるむつ湾をしっかり守っていこうということです。

・6つ目、循環型社会の実現ということで、ごみの排出量が全国平均と比べてかなり大きく、リサイクル率も低い状況にあるということなので、持続可能なごみ処理を進めていくべきではないか、リサイクルも強化していただきたいという意見がありました。

（委員）

・3ページの1番下にある廃棄物の処理について、全国平均と比べてリサイクル率は低い状況とありますが、実際にどのくらい低いのでしょうか。

（事務局）

・全国平均は平成28年度で20.3%となっていて、青森市の平成28年度の実績が16.5%でした。平成26年度までは10%前半ぐらいで推移していて、ちょうど平成27、28年度に16.5%に上がったのですが、その後下がったということで、平成27、28年度あたりが特別高い時期だったというのが現状としてあります。ただ、全国に比べると少し低い状態が続いています。

（委員）

・これは、リサイクル業者の都合でしょうか、それとも意識啓発の部分でしょうか。

（事務局）

・プラスチックごみを例にすると、プラごみを細分化して集めていくと、今まで回収していない物もリサイクルのほうに回るので、リサイクル率が上がっていきますが、そうするためには、地元のごみ産業がそれを受け入れないと燃やすだけになってしまうので、

両輪で進まなければいけないものですから、一朝一夕にはできない部分です。

（委員）
・もう１点。冬場の温室効果ガス排出量が多いということですが、暖房によるものでしょうか。エネルギーを使っているからということでしょうか。

（事務局）
・暖房もそうですが、他都市ではやらない除排雪などもありますので、通常の都市活動よりは多く出てしまうという気候特性や地域特性がある現状です。ただ、そうであってもトライしていかないといけない分野です。

（委員）
・政策４で「社会情勢の変化に対応した交通インフラの充実」とありますけれども、具体的には何をやるのでしょうか。

（委員）
・デマンド交通の導入も含めて、大きく見ると、交通インフラのスクラップアンドビルド的な発想ということですか。

（事務局）
・バスのほうも人口減少に伴って、乗る人が減っていますので、駅を中心に交通ネットワークを作っているのですけども、そのやりようも色々あって、色々変えていく必要が出てきます。そういう意味で、このような表現になっています。「社会情勢の変化に対応した交通環境の充実」くらいにすればいいかもしれませんね。

（委員）
・インフラと書いてあると新しい道路を造るのかなとか、何かを造ってくれるのかなと思われるので、環境の充実くらいでいいと思います。

○今日の意見の取扱等の事務連絡を行い解散。